

カフェや駄菓子屋…子供も気軽に立ち寄って 働く障害者 支える施設に

【当別】住民やボランティアの学生らが交流しながら、施設内のカフェや物販コーナーで働く障害者を支援する「当別町共生型地域オープンサロン」の起工式が四日、同町弥生で行われた。地域の住民が一体となって障害者を支える福祉の拠点を目指す。
(川村史子)

当別にサロン起工 ボランティアの活動拠点も新設

同施設は、当別町にある北海道医療大学の学生ボランティアが主体となる「当別町青少年活動センターゆうゆう24」(理事)が運営する。建設地はJR石狩当別



起工式で工事の安全を祈願する泉亭町長(前列左端)や道医療大の関係者ら



駅から歩いて五、六分の中心部にあり、商店街にも近い。敷地面積は五百十九平方メートルで、建物は木造平屋百六十四平方メートル。建設費は約三千万円で、全額厚生労働省からの補助で賄う。開設は七月中旬の予定。施設内には、高等養護学校を卒業した障害者の若者が働けるような、地場野菜を食材に使った力

「共生型地域オープンサロン」と合わせて「ゆうゆう24」は、町内の福祉サービスの事業者やボランティア団体などの活動拠点となる「当別町共生型地域福祉ターミナル」を同町錦町に新設する。建物は木造平屋一部二階建て延べ百七十九平方メートル。先月末に建設に着手し、七月初旬のオープンを目指している。「ゆうゆう24」の大原祐介事務局長は「福祉の拠点が町の中心部にできることで、商店街の活性化やまちのにぎわいづくりに貢献するのは」と話している。